



HEARTFUL CARE FOR YOU

第69号

令和2年2月1日

まこと

S i n c e r i t y

●発行/医療法人 誠医学会 宮川病院
●発行責任者/宮川 政久●発行所(事務所)/〒210-0802 川崎区大師駅前2-13-13 TEL 044-222-3255
●編集人/山田 英正

宮川病院創立110周年 ～地域とともに～

医療法人誠医学会宮川病院 理事長・院長 宮川 政久



宮川病院の創立は
1909 (明治42) 年10月
でございます。

創立者である祖父の宮川政吉が慈恵会医科大学を卒業し母校にて臨床経験を積んでいたところ、学生時代から大変面倒を見ていただいた方々やそ

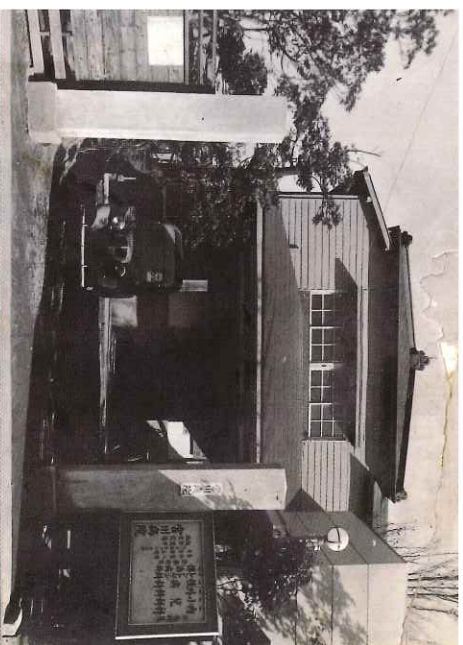
の友人である川崎大師の名士の方々などから川崎大師に医者がいなくて困っているのでは是非開業しないかとお誘いをいただき、皆様方のご支援と仲間の医師達の協力もあり、個人の医院からではなく最初から病床35床を有する病院として開業させていただきました。これは日本の病院の発祥としては稀なものだと思います。

開業後は慈恵会医科大学の「病気を診ずして、病人を診よ」と言う建学の精神に基づき地域医療の為一心不乱に働き、この間発生した1923 (大正12) 年の関東大震災なども乗り越えながら地元の人からも信頼される病院として順調に発展してまいりました。

しかしながら、1945 (昭和20) 年4月の大空襲にて川崎界隈は一夜にして灰塵と化し、病院も全焼してしまいました。当時入院されていた30人程の患者さんについては、一人の受傷者もなく全員を安全に避難させています。当時私は小学校1年生でありましたが、大空襲の翌日父と焼失してしまつた病院の跡に立ち、川崎駅方面を見たところ一面の焼け野原に時計台のあ

る市役所の建物がそびえ立っていたのが記憶に残っています。

二代目院長である父の宮川貞治は慈恵会医科大学卒業後母校内科医局に入局し研鑽の一方、陸軍軍医としても活躍しておりました。1945 (昭和20) 年終戦と共に復員し、地元の篤志家などのご支援もいただきながら、大師地区の地域医療確保のため獅子奮迅の努力を重ね、早々と宮川病院を再興し、1951 (昭和26) 年には機構改革を行い新たに医療法人誠医学会宮川病院として近代化した病院の発展に尽力致しました。



1948 (昭和23) 年 戦災から復興した病院

1980 (昭和55) 年6月2代目院長宮川貞治の後を継ぎ私が3代目院長に就任致しました。その後、実弟の忠昭、貞昭が副院長に就任し、順天堂大学医学部並びに帝京大学医学部のご支援をいただきながら著しく進歩する医療に対応して、ハード面・ソフト面を改善しつつ、1999 (平成11) 年3月には川崎市で第1号とな

る日本医療機能評価機構認定病院として認められました。その後も5年に1度の更新審査を受けながら創立110周年を迎えた昨年は5回目の更新を既に取得しております。

近年地域医療構想、地域包括ケア、医師の働き方改革、専門医制度の改革等々が叫ばれ、徐々にではありますが、地域医療が大きな転換期をむかえつつあります。宮川病院におきましてはこの様な変革、構想を先駆けて捉え、地域ニーズに寄り添い対応すべく、この10年の間に、一般急性期の病棟の一部を緩和ケア病棟や地域包括ケア病棟に転換し、病棟機能を充実させると共に在宅医療にも力を注ぎ、地域医療連携室も設置しております。



1997 (平成9) 年 川崎大師訪問看護ステーション開設

慣れ親しんだ自宅で治療が受けられる在宅医療や診療所・病院・特養や老健など各種施設との連携機能を更に充実させる面からも地域医療連携室の人員及び機能を強化し、更に訪問看護ステーションの拡大や療養通所介護事業を新たに立ち上げるなど地域貢献への取り組みを推進しております。



2016 (平成28) 年 療養通所介護まこと開設

また、大師地区の地域包括ケアシステムの構築、育成に尽力し、多職種及び各種施設との連携強化や種々の症例の検討会等を行い、各々のケースに対し適切な対処法を考え対応しており、更に一般市民向けの公開



2017 (平成29) 年 公開講座 プラザ大師にて

講座等も開催し、地域包括ケアシステムの構築・実践に向けた取り組みも行っております。

宮川病院は明治、大正、昭和、平成、令和と時代が変わっても、常に地域の皆さまと共に歩む病院として、「地域医療に貢献する」という理念のもとに邁進し、役割を果たして参りました。

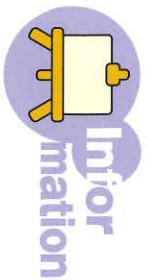
今後も、地域医療構想などの医療動向を踏まえた病院機能の充実を目指し、次世代を担う医師などの育成にも努めて参ります。

また私共を継承する医師達も、現在各々の専門分野での修練を重ね成長致しており、今後各料更なる強化や新たに眼科の開設などを展望しているところであります。



宮川政吉が創立し、2代目宮川貞治が立派に継承し、3代目の私共が更なる発展に努め、今後更に後継者が150年、200年と継承し、これからも変わることなく地域の皆様に愛される病院として、「誠の医療」に徹し、地域医療に貢献して参ります。

今後とも皆様方の絶大なるご支援、ご鞭撻を賜ります様切にお願い申し上げます。



高速・高画質・低被ばく ～レントゲンシステム・マンモグラフィが新しくなりました～

放射線科 主任 竹崎 徹

令和元年11月よりレントゲン画像システム、12月よりマンモグラフィ（乳房専用撮影機器）の機器が新しくなりました。

以前までは、CRというレントゲン画像システムを使用していましたが、画像の撮影をして処理をするまでに60秒程の時間がかかっていました。新しいFPDというシステムでは、2秒程で終わることが出来ます。画像の確認作業が短くなることで、迅速に画像撮影を進めていけるためレントゲン撮影全体の時間が大幅に短くなります。

また、新しいFPDでは核医学検査で使用されていた技術を使用し、少ない量のX線でも綺麗な高画質の画像が撮影出来ます。

さらに、少ない量のX線量で撮影出来るため、X線による被ばく量を下げることが可能になりました。

→一般X線撮影 間接変換フラットパネル装置 (デジタルX線画像診断システム)

当院では、一般X線撮影に新方式の間接変換FPD(フラットパネルディスプレイ)装置を導入しております。これにより、患者様の検査にかかる負担が軽減され、より高画質な画像での診断が可能となりました。

特長

- 高速** 約1秒で画像を確認できます
- 高画質** デジタル化の技術で画質を再現
- 高感度** 従来方式に比べ、低線量で撮影できます*

患者様へのメリット

- 検査時間が短縮されます
- 被ばく線量を低減できます

*Advanced technology. 100% 画質を再現

次に、マンモグラフィの検査では検査部位全体を圧迫板という板ではさみ、検査部位の厚さが均等になるように圧迫する必要があります。これにより、検査時に痛みが出してしまう場合があります。この検査の際の「痛み」を「検診をしない」理由の1つとしてあげられるアンケート結果があります。（認定NPO法人乳房健康研究会「乳がん検診に関する調査2013 調査報告書」）

今回導入されたマンモグラフィでは、検査時の圧迫を和らげ、痛みを軽減させる「なごびね」という機能を備えています。この機能と「高速」・「高画質」・「低被ばく」なFPDを組み合わせることで、当院で乳がん検診等を受けていただく方に「やさしい検査」を実感していただけたらと思います。

乳がん検査に効果的な高画質画像が得られる
デジタルマンモグラフィシステム

早期発見のために、乳がん検診を受けましょう

当院では、サイズの少ない、鮮明な診断画像を抽出する乳がん検査用デジタルX線装置を導入しております。

50µmの高解像画像

乳腺の中にある微細な石灰化を事前に抽出

マンモグラフィ画像

フラットパネルディスプレイが導入されています。検査の反応を事前に抽出

検査方法についての疑問、不安などありましたら職員にお声掛けください。検査を担当する診療放射線技師がお答えさせていただきます。

CR : Computed radiography(コンピュータッド・ラジオグラフィ)

FPD : Flat Panel Detector(フラットパネル・ディスプレイ)



第17回宮川病院公開講座 「認知症の理解とケア」を開催しました

教育研修委員会 平野 勝久

令和元年10月26日(土)、プラザ大師(川崎市教育文化会館大師分館)におきまして第17回宮川病院公開講座(課題別連携事業)「認知症の理解とケア」を開催しました。当院の西村真由美看護師長が講師を務め、地域で支える認知症ケアについて分かりやすく解説しました。

日本は世界でも有数の長寿国であり、2025年には10人に1人が認知症またはその予備軍になると予測されています。

老化の最も多い症状に物忘れがあります。物を置いたところを忘れてしまう、食事の献立や人の名前などが思い出せないなどの様々な症状があります。

認知症は老化による物忘れと異なり、物を置いたことや食事をしたことなどの経験自体を忘れてしまうという記憶の障害に特徴があります。症状が進むと1時間前のことも思い出せないということがあります。記憶や理解、判断力の障害などは中核症状と言われますが、それらに起因して徘徊、睡眠障害、暴言・暴力、介護拒否などの様々な症状が出現してきます。このような症状は周辺症状と呼ばれ、認知症の方の自立した

生活を大きく損ない、介護が必要になる原因となります。周辺症状は関わる人の不適切な対応によって悪化すると言われています。周囲の人が認知症を正しく理解し、適切に対応することが周辺症状を和らげることにつながります。「あれ、おかしいな・・・」と感じたら、一人で悩まず、家族やかかりつけ医に相談すること大切です。宮川病院でも「地域医療連携室」にて、看護師と社会福祉士が患者さん、ご家族の相談窓口となっております。お気軽にお立ち寄りください。



外来診療担当医表

受付時間 午前 8時00分～11時30分
午後 13時00分～16時45分 (土曜を除く)
院長特別外来(金) 午後 16時00分～16時45分

2019/7/1～

科	曜日	月	火	水	木	金	土
内科	午前	院長・宮川睦喜	院長・中込	出村・野邑	院長・出村・宮川(め)	櫻井(秀)・中込・宮川(め)	院長・櫻井(秀)・野邑
	午後	院長・宮川睦喜	櫻井(秀)・中込	出村・上木	出村・宮川(め)	櫻井(秀)・野邑・宮川(め)	
外科	午前	志茂・中津	副院長・小河	副院長・中津	宮川貞昭・志茂	副院長・藤條	副院長・植崎
	午後	宮川貞昭	小河	榑崎	宮川貞昭	藤條	
整形外科	午前	第1・3・5週 小酒井 第2・4週 古谷	小酒井	小酒井	古谷	小酒井	第1・3・5週 小酒井 第2・4週 古谷
	午後	古谷	古谷	小酒井	原田	古谷	

曜日	火	水	金
診療科	皮膚科	泌尿器科	脳外科
午前	小川	野間	—
午後	小川	野間	川村



〒210-0802
川崎市川崎区大師駅前 2-13-13
TEL 044-222-3255
FAX 044-222-8691
日本医療機能評価機構認定病院
医療法人 誠医学会 宮川病院